

モビリティ グループの外部のワイヤレス LAN コントローラと Lightweight アクセス ポイントのフェールオーバーの設定例

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[WLC 用のモビリティ グループの設定](#)

[_WLC LAP](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

このドキュメントでは、ワイヤレス LAN コントローラ (WLC) でフェールオーバー機能を設定する方法について説明します。この機能により、Lightweight アクセス ポイント (LAP) がモビリティ グループの外側の WLC にフェールオーバーすることができます。

[前提条件](#)

[要件](#)

この設定を行う前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- Lightweight アクセスポイント (AP) および Cisco WLC の設定に関する基本的な知識
- Lightweight AP Protocol (LWAPP) に関する基本的な知識
- WLC フェールオーバーおよびモビリティ グループの基本的な理解WLC フェールオーバー機能に関する詳細については、「[Lightweight アクセスポイントのための WLAN コントローラのフェールオーバーの設定例](#)」を参照してください。モビリティ グループの詳細については、「[モビリティ グループの設定](#)」を参照してください。

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco Aironet 1000 シリーズ Lightweight AP
- ファームウェア バージョン 4.2.61.0 を実行する Cisco 2100 シリーズ WLC
- ファームウェア バージョン 4.2.61.0 を実行する Cisco 4400 シリーズ WLC

このドキュメントで説明する機能は、WLC バージョン 4.2.61.0 に導入されています。この設定は、バージョン 4.2.61.0 以降を実行する Cisco WLC でのみ動作します。

注: 最新の WLC リリース 5.0.148.0 を実行している場合は、次の制約事項を確認してください。

- 2000 シリーズ コントローラは、コントローラ ソフトウェア リリース 5.0.148.0 での使用がサポートされません。
- 1000 シリーズのアクセス ポイントは、コントローラ ソフトウェア リリース 5.0.148.0 での使用がサポートされません。

注: 詳細については、『[Cisco Wireless LAN Controller と Lightweight アクセス ポイント リリース 5.0.148.0 のリリース ノート](#)』を参照してください。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

4.2.61.0 より前のすべての WLC バージョンでは、WLC が「ダウン」したときに、LAP がフェールオーバーに対応するように設定されている場合、この WLC に登録されている LAP が同じモビリティ グループの別の WLC にのみフェールオーバーできます。詳細は、『[Lightweight アクセス ポイントのための WLAN コントローラのフェールオーバーの設定例](#)』を参照してください。

Cisco WLC バージョン 4.2.61.0 以降では、バックアップ コントローラ サポートという新しい機能が導入されました。これは、アクセス ポイントがモビリティ グループ外部のコントローラにもフェールオーバーできるようにする機能です。

中央のロケーションにある単一のコントローラは、アクセス ポイントでローカル領域のプライマリ コントローラを失った場合にバックアップとして機能できます。中央および地域のコントローラは、同じモビリティ グループに存在する必要はありません。コントローラの CLI を使用して、ネットワークのアクセス ポイントに対して、プライマリ、セカンダリ、およびターシャリ コントローラを指定できます。コントローラ ソフトウェア リリース 4.2.61.0 では、アクセス ポイントがモビリティ グループ外部のコントローラにフェールオーバーできるようにする、バックアップ コントローラの IP アドレスを指定できます。この機能は、現在コントローラ CLI を経由する場合にのみサポートされます。

このドキュメントでは、この機能を説明するために、次の初期設定を使用します。

- ファームウェア バージョン 4.2.61.0 を実行する 2 つの Cisco WLC。明確にするために、このドキュメントでは、設定全体を通じて WLC を示すために名前 WLC1 と WLC2 を使用しま

す。

- WLC1 の管理インターフェイス IP アドレスは 10.77.244.210/27 です。
- WLC2 の管理インターフェイス IP アドレスは 10.77.244.204/27 です。
- 現在 WLC1 に登録されている Cisco 1000 シリーズ LAP。次の設定では、この LAP の名前は AP1 です。

WLC の基本的なパラメータの設定方法に関する詳細については、「[ワイヤレス LAN コントローラと Lightweight アクセス ポイントの基本設定例](#)」を参照してください。

設定

この項では、このドキュメントで説明する機能の設定に必要な情報を提供します。

この機能を設定するには、次の手順を実行します。

1. [WLC 用のモビリティ グループの設定](#)
2. [WLC LAP](#)

[WLC 用のモビリティ グループの設定](#)

最初に、2 つのモビリティ グループで WLC1 と WLC2 を設定します。

この例では、WLC1 は **TSWEB** モビリティ グループに設定され、WLC2 は **backupwlc** モビリティ グループで設定されます。セクションでは、コントローラの CLI を通じて WLC のモビリティ グループを設定する方法を示します。

モビリティ グループを設定するには、WLC の CLI モードで次のコマンドを入力します。

- WLC1>config mobility group domain TSWEB
- WLC2>config mobility group domain backupwlc

したがって、WLC1 と WLC2 は、2 つ異なるモビリティ グループ内に設定されます。

WLC GUI でこれを設定することもできます。詳細については、「[WLC 用のモビリティ グループの設定](#)」を参照してください。

[モビリティ グループ外におけるフェールオーバー用の WLC および LAP の設定](#)

次の手順では、モビリティ グループ外部へのフェールオーバーのために WLC と LAP を設定します。

このドキュメントの前半で説明したとおり、LAP は現在 WLC1 に登録されています。WLC1 でこれを確認できます。この例では 10.77.244.210 です。これを実行するには、コントローラの GUI から [Wireless] をクリックします。この例では、LAP の名前は AP1 です。

The screenshot shows the Cisco Wireless Management interface. The 'WIRELESS' tab is highlighted in the top navigation bar. On the left, a sidebar lists various configuration options like 'Access Points', 'Radios', and 'AP Configuration'. The main area displays a table titled 'All APs' with a search bar. The table contains one entry for 'AP1' with the following details:

AP Name	Ethernet MAC	AP Up Time	Admin Status	Operational Status	Port	AP Mode
AP1	00:0b:05:5b:fb:d0	0 d, 09 h 55 m 24 s	Enable	REG	2	Local

目的は、異なるモビリティグループに属する WLC2 (10.77.244.204) にフェールオーバーできるように、LAP を設定することです。これを実現するには、Telnet アプリケーションまたは直接コンソール接続を通じて、現在 LAP が登録されている WLC (WLC1) の CLI モードにログインし、この LAP のプライマリおよびセカンダリ WLC を設定します。

1. WLC1 の CLI モードでは、次のコマンドを発行します。

```
WLC1>config ap primary-base  
controller_name Cisco_AP [controller_ip_address]
```

[controller_name] フィールドは、プライマリ WLC のシステム名を表します。次の例では、WLC1 自体が AP1 LAP のプライマリ WLC です。ここでは、WLC1 は WLC1 のシステム名です。WLC の [Monitor] 画面の GUI モードでコントローラ名を確認できます。[Cisco_AP] フィールドは、Cisco AP の名前を表します。次の例では、これが AP1 です。

[controller_ip_address] フィールドは、プライマリ WLC の管理インターフェイスの IP アドレスを表します。この例では、10.77.244.210 は、WLC1 の管理インターフェイスの IP アドレスです。注: バックアップコントローラが、アクセスポイントが接続されているモビリティグループの外部にある場合 (プライマリコントローラ)、必ずプライマリ、セカンダリ、またはターシャリコントローラの IP アドレスをそれぞれ入力する必要があります。そうしないと、アクセスポイントがバックアップコントローラに結合できません。したがって、この例の設定で使用するコマンドは、WLC1 > config ap primary-base WLC1 AP1 10.77.244.210 です。

2. ここで、プライマリ WLC1 がダウンした場合に、フェールオーバーする LAP のセカンダリ WLC として WLC2 を設定します。異なるモビリティグループにある WLC2 を設定するに

は、WLC1 の CLI モードから次のコマンドを発行します。

```
WLC1>config ap secondary-base  
controller_name Cisco_AP [controller_ip_address]
```

[controller_name] フィールドは、バックアップまたはセカンダリ WLC のシステム名を表します。次の例では、WLC2 は AP1 LAP のセカンダリ WLC です。ここでは、**WLC2 は WLC2 のシステム名です**。[Cisco_AP] フィールドは、Cisco AP の名前を表します。次の例では、これが AP1 です。[controller_ip_address] フィールドは、セカンダリ WLC である WLC2 の管理インターフェイスの IP アドレスを表します。この例では、10.77.244.204 は、WLC2 の管理インターフェイスの IP アドレスです。**注:** バックアップコントローラが、アクセスポイントが常に接続されているモビリティグループの外部にある場合 (プライマリコントローラ)、プライマリ、セカンダリ、またはターシャリコントローラの IP アドレスをそれぞれ入力する必要があります。そうしないと、アクセスポイントがバックアップコントローラに結合できません。したがって、この例の設定で使用するコマンドは、**WLC1 > config ap secondary WLC2 AP1 10.77.244.204** です。

これは、WLC1 からの設定を示す CLI 画面です。

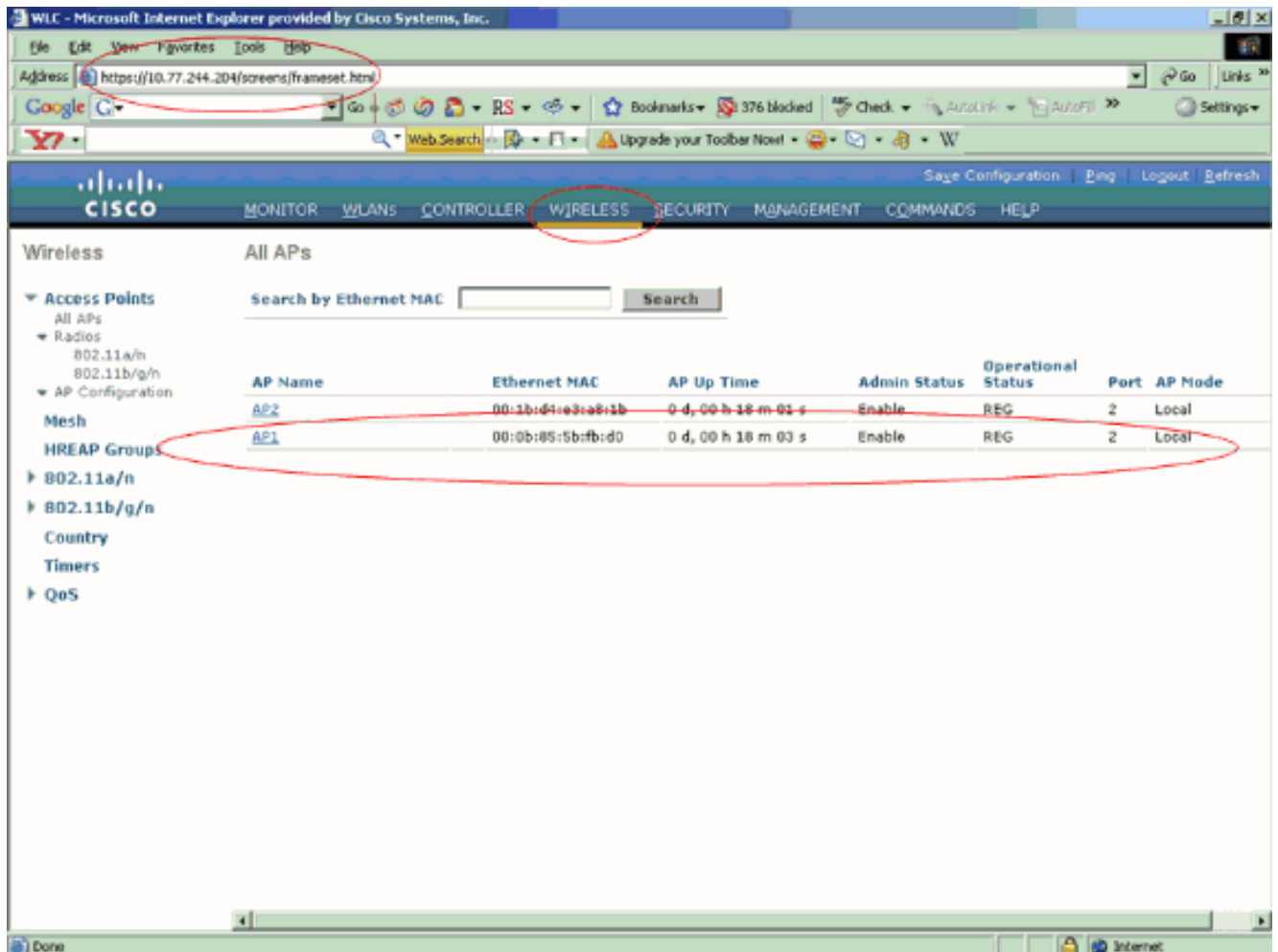
```
WLC1>config ap secondary-base  
controller_name Cisco_AP [controller_ip_address]
```

確認

設定が正しく動作しているかどうかを確認する必要があります。この例では、WLC1 がダウンしたときに、AP1 は、異なるモビリティグループに属する WLC2 にフェールオーバーし、登録する必要があります。

この設定を確認するために、次の手順を実行します。

1. 電源または WLC1 と AP1 を接続するイーサネットケーブルを取り外します。接続を取り外すと、LAP は WLC からそて自身で登録を解除し、別の WLC を検索します。
2. WLC を含む LAP の通常の登録プロセスに従って、AP1 は WLC2 に正常に登録する必要があります。WLC2 (10.77.244.204) の GUI のモードでこれを確認します。



このスクリーンショットで囲まれたパラメータに注意してください。ここで、AP1がWLC2 (10.77.244.204) に登録されていることを確認します。

debug lwapp events enable コマンドを使用して、WLC2 の CLI モードで登録プロセスを確認することもできます。次に例を示します。

```
WLC1>config ap secondary-base
controller_name Cisco_AP [controller_ip_address]
```

この出力では、すべての設定パラメータが WLC2 から AP1 に正常にダウンロードされていることを確認できます。このダウンロードプロセスは、LAP がこの WLC に登録されているときのみ行われます。

show ap config general Cisco_AP コマンドは、このドキュメントで説明する設定を確認するために使用されます。次に例を示します。

```
WLC2 >show ap config general AP1 Cisco AP Identifier..... 5 Cisco AP
Name..... AP1
.....
.....
..... Name
Server..... Cisco AP Location.....
default_location Cisco AP Group Name..... default-group Primary Cisco
Switch Name..... WLC1
Primary Cisco Switch IP Address..... 10.77.244.210
Secondary Cisco Switch Name..... WLC2
Secondary Cisco Switch IP Address..... 10.77.244.204
```

トラブルシューティング

次のデバッグ コマンドを使用して、設定のトラブルシューティングを行うことができます。

- debug lwapp errors enable - LWAPP エラーのデバッグを設定します。
- debug dhcp message enable - DHCP サーバとの間で相互に交換された DHCP メッセージのデバッグを設定します。
- debug dhcp packet enable - DHCP サーバとの間で相互に送信された DHCP パケットの詳細なデバッグを設定します。

関連情報

- [Cisco Wireless LAN Controller コンフィグレーション ガイド、リリース 4.2 - Lightweight アクセス ポイントの制御](#)
- [Wireless LAN Controller \(WLC \) への Lightweight AP \(LAP \) の登録](#)
- [Lightweight アクセス ポイントの WLAN コントローラ フェールオーバーの設定例](#)
- [Wireless LAN Controller と Lightweight アクセス ポイントの基本設定例](#)
- [ワイヤレス LAN コントローラ \(WLC \) の設定のベスト プラクティス](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)